令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和5年12月
小松島市教育委員会

1. はじめに

令和5年4月18日、小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。その結果概要について、小松島市の児童・生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等の特徴的な傾向と今後の取組について次の通りまとめました。

なお、「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施されています。

※「全国学力・学習状況調査」は、特定の教科の学力や教育活動の一側面について測定したものであります。本市では、本調査結果が学力全体を評価したものと捉えられ、学校間の序列化や過度な競争につながる恐れや、個人が特定される可能性があるため、学校ごとの数値結果（正答率や実数）の公表は行っておりません。

2. 調査概要

（1）実施日　令和5年4月18日（火）

（2）調査実施人数

小松島市 小学校 第6学年の児童 215人
小松島市 中学校 第3学年の生徒 236人

（3）実施内容

①教科に関する調査

小学校 ： 国語 算数 理科
中学校 ： 国語 数学 外国語

②質問紙調査

学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸側面等に関することを問う

3. 調査結果

（1）教科全般に係わる調査結果について

【小学校】

国 語	**〇全体の正答率は、全国の正答率と同程度である。** ・ 学習指導要領の内容としては、「知識及び技能」の“言葉の特徴や使い方に関する事項”に関しては全国平均を上回っている。“情報の扱いに関する事項”に関してはほぼ同等である。 ・ 「思考力、判断力、表現力等」は、“話すこと・聞くこと”“書くこと”“読むこと”の全ての項目で下回っている。 ・ 評価の観点としては、「知識・技能」が全国平均を上回っているが「思考・判断・表現」は下回っている。 ・ 問題形式については、「短答式」は上回り、「選択式」はほぼ同等、「記述式」は下回っている。
算 数	**〇全体の正答率は、全国の正答率をやや下回っている。** ・ 学習指導要領の領域としては、「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」全ての項目で正答率は全国平均を下回っている。 ・ 評価の観点としては、「知識・技能」「思考・判断・表現」どちらも下回っている。 ・ 問題形式としては、「選択式」「短答式」「記述式」全ての項目で正答率は全国平均を下回っている。

【中学校】

国 語	**〇全体の正答率は、全国の正答率をやや下回っている。** ・学習指導要領の領域等では、「知識及び技能」の“書くこと”“話すこと・聞くこと”“読むこと”の全ての項目で全国平均を下回っている。しかし“話すこと・聞くこと”に関しては昨年度より全国平均に近い正答率であった。 ・評価の観点としては、「知識・技能」「思考・判断・表現」の両方で全国平均を下回っている。 ・問題形式としては、「選択式」「短答式」「記述式」全ての項目で全国平均を下回っている。無回答率も高い。

数 学	**〇全体の正答率は、全国の正答率をやや下回っている。** ・学習指導要領の領域では、“数と式”は全国平均と比べてほぼ同等であるが、“関数”“図形”“データの活用”は下回っている。しかし“データの活用”に関しては、昨年度に比べ全国平均に大いに近い正答率となっている。 ・評価の観点としては、「知識・技能」「思考・判断・表現」はともに全国平均を下回っている。 ・問題形式としては、「選択式」「短答式」「記述式」全ての項目で全国平均を下回っている。
英語	**〇全体の正答率は、全国の正答率をやや下回っている。** ・学習指導要領の領域としては、“聞くこと”“読むこと”“書くこと”全ての項目で全国平均を下回っている。 ・評価の観点としては、「知識・技能」「思考・判断・表現」どちらも全国平均を下回っている。 ・問題形式としては、「選択式」「短答式」の項目で全国平均を下回っている。「記述式」はほぼ同等の回答率であった。

（2）各教科における特徴と改善策

【小学校】

国 語	漢字を正しく書くこと、大きさや配列に注意して書くことの正答率は、全国平均より高い。 しかし、目的に応じて，文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかや、情報と情報との関係付けの仕方，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかに課題がある。 情報と情報との関係を理解するためには、様々な情報の中から原因と結果などの関係を見出し、結び付けて捉えることができるようにすることが重要である。 まず必要な情報と不要な情報に印をつけて分類したり、関係のある情報同士を線や矢印でつないだり、表にまとめたりして整理をすると効果的である。その際に ICT 機器を活用すると、編集したり視覚的に捉えたりしやすくなるので、情報を整理しやすくなる。 また文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめることができるか、必要なことを質問しながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかについても課題がある。

	そのためには、文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことに基づき、既有の知識や体験などと結び付けて自分の考えを形成することが重要である。 また、文章を読むにあたり、読む目的を意識すること、文章を読んで理解したことと、自分の考えとの関係を意識してまとめることができるよう、複数の本や資料を読み、自分の考えを広げたりすることを指導することも大切である。児童によっては、読むことに時間がかかってしまい、書かれている内容を捉えることが難しい場合が考えられる。そのような場合には、「音読」に関する指導事項と関連させ、声に出して読むことで書かれている内容を大づかみに捉えることができるようにしたり、教師が一緒に読んで児童の理解を助けたりして指導すると効果的である。
算 数	表から変化の特徴を読み取り，表の中の知りたい数を求める問題や，2位数の乗法の正答率は全国平均より高い。 しかし，式や言葉を用いて記述する問題や図形の意味や性質について理解する問題，図形について言葉や数を用いて記述で理由を述べる形式の問題についての正答率は全国平均を下回っている。 図形を観察したり、操作したりする活動の中で、その図形を構成する要素や要素間の関係に着目することが大切である。例えば紙を折ったり切ったりすることによってできた図形だけでなく、対称な図形や図形を敷き詰めてできた模様などを観察することで、図形の意味や性質を見出すことに繋がる。 また天井と床、教室の壁などを用い、児童に身近な日常生活の場面から問題を解決できるようにすることも大切である。長さや高さを求めたい日常生活の場面で、ある形を図形と見ることで問題を解決する活動が考えられる。 2つのグラフを見て，見出した違いを言葉と数を用いて記述する問題についての正答率は全国平均を下回っている。 目的に応じて分類整理された複数のグラフを比べ、見出したことを、他者に分かりやすく表現できるようにすることが重要である。 指導にあたっては、2つのグラフの部分と部分や、複数のグラフを比べ、同じところや似ているところ、少し違うところや大きく違うところを見出すことができるようにすることが大切である。 またグラフから特徴や傾向を捉えたり、考察したことをグラフのどの部分からそのように考えたのかを明らかにしたりして、他者に分かりやすく説明できるようにすることも大切である。

【中学校】

国 語	インターネットの記事を読み，情報と情報との関係について理解する問題や，知りたい情報に合わせて効果的な質問できるかに対しての正答率は全国平均より高い。 また，観点を明確にして2つの文章を比較し，表現の効果について考える問題，古典における歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題の正答率も全国平均より高かった。 しかし，文章に見出しを付ける問題で，情報と情報との関係を理解しているかどうかに関しての問題の正答率は全国平均より低かった。 情報と情報との関係について理解するためには、考えとともに考えの拠り所となる事例が示されているかを確かめるなど、話や文章の中に示されている考えと、それを支える根拠との関係を明らかにすることができるよう指導することが大切である。 例えばインタビューを行ったりレポートを書いたりする前に、目的や場面、意図に応じて資料を集め、資料から必要な情報を取り出して整理するなどの学習活動が考えられる。 資料の内容を理解するだけでなく、意見と根拠などの関係に注意して、不足している情報がないかやその関係が適切かなど、情報と情報がどのように結び付いているのかを捉えることができるように指導することが大切である。 また自分の考えが伝わる文章になるように，根拠を明確にして書く問題についても正答率が低く、記述式の問題に関しては無回答率がどの問題も高かった。 レポートなど調べたことや考えたことを伝える文章を書く際には、伝えたいことが伝わる文章になるように、根拠を明確にすることが大切である。 そのためにはまず、根拠が、考えや言動の拠り所となるものであることを理解する必要がある。 その上で、自分の思いや考えを繰り返すだけではなく、根拠を文章の中に記述する必要があることを理解して書くことが重要である。 その際、根拠として、複数の事例を示したり、専門的な立場からの知見を引用したりするなど、工夫して書くことができるよう指導することも大切である。例えば、読み手に伝えたい自分の考えを明らかにした上で、複数の事例の中からどの事例を自分の考えを支える根拠として取り上げるのかを検討したり、根拠をどのように文章中に記述すると明確になるのかを吟味したりする学習活動が考えられる。

数 学	自然数を選ぶ問題や四分位範囲求める問題の正答率は全国平均より高かった。 小学校算数科でも学習した整数の概念や、中学校数学科で学習する自然数、負の整数などの数の集合を捉え直すことは、第3学年の有理数や無理数の学習においても大切である。 しかし、グラフや式を用いて、日常生活や社会の事象を数学的に解釈しながら問題を解決できるかどうかの問題や、図形を構想に基づいて証明することができるかをみる問題においては全国平均より正答率は低かった。 まとめた表から「走った時間が決まると、走った道のりが決まる」ことを読み取り、「走った道のりは、走った時間の関数である」と捉え、二つの関係を理想化したり単純化したりする話し合いの場を設定することも学習活動の一つとして考えられる。 日常的な事象における数量の関係を一次関数とみなして問題解決することや、表、式、グラフを相互に関連付けて考察することなど、関数を活用することのよさを実感できるようにすることが大切である。 図形の証明については、観察や操作、実験などの活動を通して、予想した事柄が成り立つ理由を、筋道を立てて考えることができるようにするとともに、条件を変えるなどして統合的・発展的に考察することができるようにすることが大切である。 例えば厚紙で作った二つの合同な三角形を用いたり、図をかいたりするなどの具体的な操作を通しながら、証明を振り返って考えることができるようにすることが大切である。 また、こうした活動を通して、自ら条件を変えた場合について考察しようとしたり、数量や図形の性質を成り立たせる本質的な条件を見出そうとしたりする態度を育てることが大切である。
英語	ロボットについて書かれた英文を読み，書き手の最も伝えたい内容を選択する問題では、正答率は全国平均より高く、社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができていた。 また、学校生活の中から紹介したいものを取り上げて説明する文章を書くという問題においても、全国平均を上回る正答率が得られている。 しかし、日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き必要な情報を聞き取る問題では、全国平均より大幅に正答率を下回っていた。 「必要な情報を聞き取る」とは、複数の情報が含まれるまとまりのある内容の英語を聞き、話されることの全てではなく、聞き手として目的に応じて知りたいことや欲しい情報などを聞き取ることである。 そのためには、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて必要

	な情報を聞き取ったり、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報であるか判断した上で聞き取ったりすることが求められる。 　指導に当たっては、店や公共交通機関などで用いられる簡単なアナウンスを聞き、自分が必要とする情報を聞き取る活動や、学校行事における係分担の説明や持ち物等の連絡、天気予報、交通情報などを聞き、自分が必要とする情報を聞き取る活動などの言語活動に取り組むことが考えられる。 　必要な情報は何かをはっきりさせて、それらに関連する語句や表現に着目して聞き取ることができるように指導することが大切である。 　また、文と文の関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる問題の正答率も低かった。 　指導にあたっては、短い文章を読む際に、それぞれの情報の関係を示す接続詞に注目させながら文章の流れを理解したり、キーワードを拾い、全体としての内容を数文の英語でまとめたりする活動などが考えられる。 　またその文と文の関係にだけ注目するのではなく、段落と段落の関係をワークシートなどに図示させて、段落間の関係を捉えることも効果的である。

（3）生徒質問用紙の特徴

生活習慣や学習環境等に関する調査結果（一部抜粋）
※数値は「どちらかといえば」「時々」を含む割合を％で示したものである。

番号	質問事項	小学校		中学校	
		本市	全国	本市	全国
1	朝食を毎日食べていますか。	94.6	93.9	89	91.2
2	自分には、よいところがあると思いますか。	84.6	83.5	80.2	80
3	将来の夢や目標を持っていますか。	80.1	81.5	65.9	66.3
4	学校に行くのは楽しいと思いますか。	88.2	85.3	77.6	81.8
5	人が困っているときは、進んで助けていますか。	93.2	91.6	84.4	88.1
6	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	98.2	96.9	92.8	95.5
7	普段（月曜日から金曜日）、1日1時間以上勉強をしますか。（学習塾、家庭教師、インタ	47.5	57.1	69.6	65.8

	ーネット活用含む）				
8	読書は好きですか。	74.3	71.8	54.9	66
9	普段（月曜日から金曜日）、1日 30 分以上読書をしますか。	31.6	37.3	23.3	28.4
10	今住んでいる地域の行事に参加していますか。	45.2	57.8	29.6	38
11	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。	79.2	76.8	60.3	63.9
12	昨年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を1週間に1度以上は使用しましたか。	92.3	86.3	74.3	80.6
13	学習の中で、PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。	95.5	95.1	87.4	93.3
14	昨年度までに受けた授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	76	78.8	69.2	79.2
15	学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。	81	81.8	72.2	79.7

（4）考察

① 基本的生活習慣、挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等（質問事項1～6）

「自分にはよいところがある」「人が困っているときは進んで助ける」「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」について、小学校も中学校も全国平均を上回っている。また、「学校に行くのは楽しい」と答えた割合も、小学生は全国平均を上回っている。

今後も、各学校の教育活動全体を通して、自尊感情や自己肯定感を高める取組、人権教育を核とした取組を続けていきたい。

「将来の夢や目標を持っているか」については、わずかに全国平均より下回っていた。キャリア教育や外部人材派遣事業を通し、児童生徒が将来の目標を見つけられる環境整備により一層取り組んでいきたい。

② 学習習慣、学習環境等（質問事項7～9）

「学習時間を1日あたり1時間以上している」割合は、全国平均と比べて、小学校は下回り、中学校は上回っている。「30分以上本を読んでいる」割合は、小学校も中学校も全国平均を下回っている。

市立図書館などと連携し、学校図書の充実や移動図書館の活用など、子どもたちが身近に本の存在を感じられたり、手に取りやすい環境整備が必要ではないかと考える。今後も、家庭学習や読書の定着化を図る取組が必要である。

③ 地域や社会に関わる活動の実施状況等（質問事項10～11）

「地域行事に参加している」割合が全国平均と比べて低い。しかし、「地域・社会をよくするために何をすべきかを考える」という項目では、小学校では全国平均を上回っている。

自分たちが住む地域をまずよく知る学習を取り入れることが必要であり、郷土愛の育成を小学校低学年から積み上げていくことが大切ではないかと考える。

地域からのゲストティーチャーを招き、自分たちがまだ知らない地域の魅力に気付かせるなど、児童生徒の目を地域社会に向けさせていくきっかけづくりに努めたい。

今後も地域との連携や社会教育活動など大きな枠組みでの取組を進めていきたい。

④ ICT を活用した学習状況（質問事項12～13）

PC・タブレットなどの ICT 機器の活用については、「昨年度までに受けた授業で、1週間に1度以上は使用したか」「授業中に自分で調べる場面で、1週間に1度以上は使用するか」の回答で見た場合、小学校では全国平均を上回っているが、中学校は下回っている。

今年度からの AI ドリル等の導入により、今後活用の機会は増えると考えられる。

中学生向けのデジタル教材の充実を更に図り、今後も ICT 活用を進めていきたい。

⑤主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況（質問事項14～15）

「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むこと」については、小学校も中学校も全国平均を下回っている。

「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすること」については、小学校は全国平均を上回り、中学校は下回っている。

全国的にみると、調査開始年度と比べ、増加傾向にある。今後も授業改善を重ね、学習を充実させたい。

4. 今後の小松島市の取組

〇社会に開かれた教育課程の実現のために、外部人材活用事業の効果的活用に努める。

〇コミュニティスクール（学校運営協議会）や地域学校協働活動の効果的な活用を図る。

〇各校で調査結果分析を行い、改善策の検討をし、授業改善に取り組む。
（積極的な ICT の活用や話合い活動の充実）

〇言語活動の充実を図るため、読書環境を整え、読書習慣の定着を図る。

〇個人面談や各種便り等を通して家庭との連携を深め、基本的な生活習慣や家庭学習の充実に取り組む。

〇市学力向上推進担当者研修会を開催し、市全体で学力向上に取り組む。